

都道府県名	秋田県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学 校 名	矢島町立矢島中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学 級 数	2	2	2	1	7	15
生 徒 数	69	74	56	1	200	

研究の概要

1 研究主題 「個に応じた多様な学習活動を通して、確かな学力を身に付ける生徒の育成」

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

主として英語，数学について少人数学習を中心とした多様な学習活動を工夫することにより個に応じた指導の実践に取り組む。

数学科では，2学年において常時少人数学習を行う。1学級を等質や習熟度別による2つのグループに分けて，それぞれ数学科教員と教科外教員のペアでTTを組む。1，3学年では，1C2Tや1C3Tによる一斉学習の中の個別指導に重点を置いたTTによる授業を主として，必要に応じて1C3Tの形態でコース別学習を実施する。

英語科では，全学級で英語科教員2名による1C2TでのTTを行う。また，必要に応じて習熟度別の少人数学習も取り入れていく。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p><b>テーマ</b> 一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の工夫</p> <p><b>仮説</b> 諸学力検査と学習に関する意識調査を分析することで生徒の実態を的確に把握し，これをもとに生徒一人一人の個に応じた指導方法や指導体制の工夫改善を進めることで，生徒の学ぶ意欲が向上し，確かな学力を一人一人に定着させることができるのではないかと。</p> <p>しっかりした学習規律や学習習慣を身に付けさせる学級経営を推進することで，生徒の学習意欲が向上し，確かな学力が身に付くのではないかと。</p> <p><b>研究内容・方法</b> 学力と意欲について調査し実態を的確に把握する。 学習状況調査，NRT，定期テスト，単元テストにより生徒の学力に関する実態把握に努める。また，生徒と保護者に対して学習に関する意識調査を行い，保護者の希望や生徒の情意面の実態とその推移を把握する。 評価と指導の一体化を図る。 平成14年度に作成した年間指導計画と評価規準について全教員で共通理解を図り，次の指導につながるような評価ができるように努める。 個に応じたきめ細かな指導方法と指導形態を工夫する。 全教育活動を通じて生徒の自己評価力を育成するとともに，英語科，数学科を中心に，TT，少人数指導，興味・関心や習熟度の違いによるコース別学習などの形態を取り入れ，学習指導の改善を図る。 また，適切な評価に基づいた補充的な学習指導と，計画的な家庭学習の充実に努める。 近隣の各校や先進的な研究校との交流を推進する。 研究成果の発信の仕方について工夫改善を図るとともに，他のフロンティアスクール研究校や先進的な研究校の視察などによる情報収集に努める。</p>
--------	---

平成  
16  
年度

**テーマ** 確かな学力を身に付ける学習指導の充実  
**仮説**

個に応じた多様な学習活動に適した教材や指導体制を工夫改善することで、確かな学力を生徒一人一人に定着させることができるのではないかと。

しっかりした学習規律や学習習慣を身に付け、生徒と生徒、生徒と教師の心の交流を深めるような学級経営を進めることで、生徒の学ぶ意欲が向上し、確かな学力が身に付くのではないかと。

**研究内容・方法**

諸学力検査と学習に関する意識調査を分析し、生徒の実態を的確に把握する。

- ・ 学習状況調査，N R T，定期テスト，単元テストの実施と分析により生徒の学力に関する実態把握に努める。
- ・ 生徒と保護者に対して学習に関する意識調査を行い，保護者の希望や生徒の情意面の実態とその推移を把握する。
- ・ 諸学力検査や学習に関する意識調査の結果を蓄積し，経年比較による分析を加える。

年間指導計画，評価規準の見直しを行い，評価と指導の一体化を図る。

- ・ 生徒の実態に応じて年間指導計画と評価規準の見直しを行う。
- ・ 評価を生かした指導の在り方について，教科の枠を超えて研究実践に努める。
- ・ 適切な評価に基づいた補充指導と，計画的な家庭学習の充実に努める。

T T，少人数指導，習熟度コース別学習など，個に応じたきめ細かな指導方法と指導形態について工夫し，それぞれに適した教材を開発する。

- ・ 全教育活動を通じて生徒の自己評価力を育成する。
- ・ 英語科，数学科を中心に，T T，少人数指導，興味・関心や習熟度の違いによるコース別学習などの形態を取り入れ，学習指導の改善を図る。
- ・ 各教科で，個に応じたきめ細かな指導に適した教材開発に努め，指導方法の工夫改善に努める。

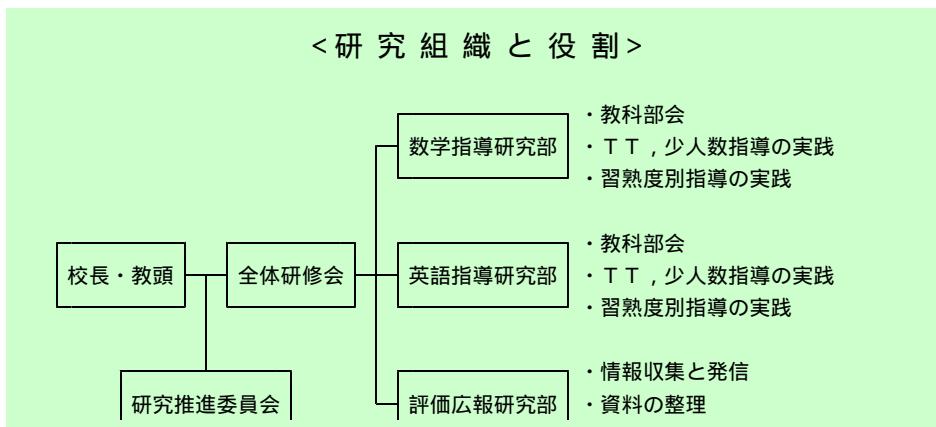
実践による成果をいろいろな方法で発信し，近隣の各校や先進的な研究校との交流を推進する。

- ・ 実践経過を随時ホームページ上に掲載する。
- ・ 授業研究会を近隣諸校に公開し，他校教員を交えた研究協議を通して本校研究のさらなる活性化を図る。
- ・ 研究成果を研究紀要にまとめて刊行する。
- ・ 計画的に先進校視察を行い，情報収集に努める。
- ・ 外部より指導者を招いて研修会を行う。

(3) 研究推進体制

校内研究に関する組織の概要は図に示すとおりで，全体研修会は研究主任が中心になって推進する。さらに，本事業に関して「フロンティア担当」を配し，全教員の力を結集して研究の推進に当たるようにした。

全教員が3部門ある研究部のどれかに所属する。数学指導研究部と英語指導研究部には，各教科部員の他に，それぞれの教科の授業にかかわる他教科の教員も所属し，それぞれの教科主任がそのまとめ役になる。各研究部は，それぞれ次のような役割を担う。



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究の成果

(1) 学習環境の整備

各学年の余裕教室を利用した「学習室」を、その名のとおり学習に使えるスペースに整えた。普通教室以外で、遠慮なく授業のできる場所は、習熟度別などの少人数指導には欠かすことができない基本要素となる。普通教室のすぐ近くに余裕教室があると、学習以外の多目的なスペースとして重宝に使われがちなところもあるのだが、あえてそこに生徒用の机と椅子を20～25個入れ、英語、数学の資料を掲示し、学習のために生かす場所として整えた。

(2) 学校全体で取り組む研究体制の確立

本事業の趣旨とそのねらい、また、目指す方向性について研究推進委員会や全体研修会、各研究部会など諸会議を通して全職員で確認し、先進校視察や外部講師を招いての研修会などで学習してきた。本校は、当初の計画に沿って英語、数学を中心に少人数指導の工夫を、他の教科で個に応じた指導の工夫を実践してきた。

個人研究の積み重ね

フロンティア事業への取り組みは、英語、数学の教科部だけでなく、学校全体で取り組む校内研究にとらえ、教科の枠を超えて「個に応じたきめ細かな指導の工夫」に取り組んできた。

本校学区内の小学校と連携して、生徒の学力向上と教員の授業力向上を図るため研究会があり、この会が主催した8月19日の研究協議会に「小・中連携による基礎・基本の定着」のテーマの下に、教員全員が自分の実践に関するレポートをもって臨み、小学校からの参加者と合わせていろいろな試みが報告され、活発な意見交換がなされた。

実践レポートの中には、「学習課題の明確化」「学習シートの工夫」「課題提示の工夫」「板書の工夫」「自己課題・自己選択・自己決定」「コミュニケーションによる育成」「TTでこそこそできる流れ」など、授業改善につながるキーワードが多々あり、教科の枠を超えて充実した研修ができた。

授業力向上について

学年の初めに学習の約束をまとめた「新しい出発にあたって」を生徒と教師で確認し合ったが、後期の初め(10月)にも再確認し、全教員の共通理解を図り共通実践することを確認した。また、授業研究会の際に、他教科の教員も協議に参加しやすくするために「授業参観カード」を活用して、研究協議を活性化することができた。

(3) 少人数学習の実践

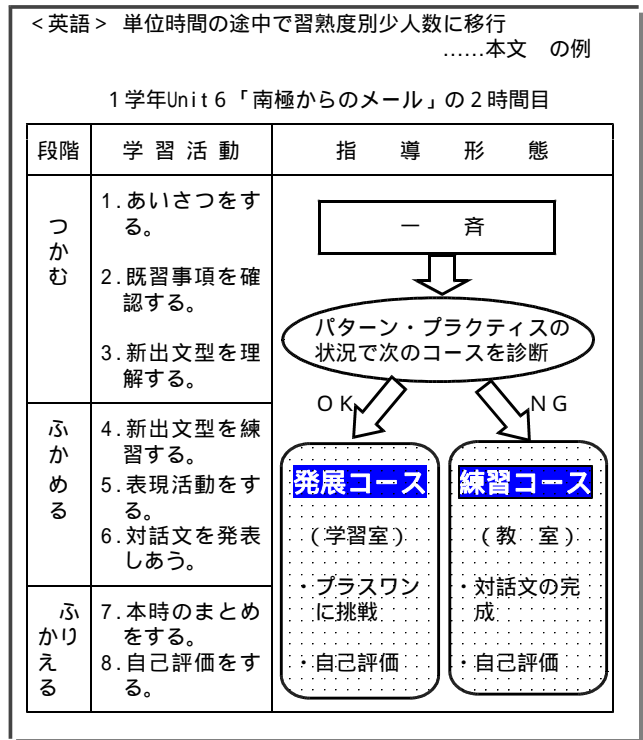
英語、数学の2教科で少人数学習を進めるための指導体制を整えた。数学科では、2学年で少人数指導や習熟度別学習を常時実施、1・3学年では免許外教員とのTTを実施してきた。また、英語科では、全学級において英語担当教師によるTTを主とし、必要に応じて習熟度別や課題別の少人数指導を取り入れている。

本校で行う少人数学習は、概ね3種類に分類でき、それぞれ必要に応じて使い分けられている。

単純分割による少人数指導

主として数学科の各単元の前半部分の学習時に用いる授業スタイルである。1学級の生徒を出席番号の偶数奇数で二分して、別々の教室(教室と学習室)で同じ内容の授業を行う。生徒数を少なくして、発表など活躍の機会の増加と個別指導の充実をねらう。(「<数学>単元を通じた少人数学習」)

これによって、発表など活躍と称揚の機会が増加し、一人一人の小さな疑問を



取り上げることができるようになり、生徒には好評であった。

#### 習熟度別学習指導

数学科では、習熟の差が大きくなりがちな単元の後半部分に用いることが多い。1学級を習熟の程度に応じて「基本」と「発展」の2コースに分けて学習内容の深さを変えた授業を行う。両コースとも同じ学習シートを使用するが、1時間の授業で、「発展コース」は自力解決を主体としてシートDまでこなしていくが、「基本コース」は丁寧な導入からシートのCまで進む。（「<数学>単元を通した少人数学習」参照）

これによって、「発展コース」では論理的な思考の方法や説明、難しい問題の解決に多くの時間を費やすことができ、生徒は満足感を感じている。また、「基本コース」では、スモールステップや具体物の操作・演示などを取り入れた授業が多くなり、分かりやすくなったと感じている生徒が多い。

英語科では、1単位時間の中で途中からコースを選択して教室を移動するスタイルが多くとられている。一斉授業でキーセンテンスの学習をした後、定着や応用のための段階で習熟度別学習を取り入れてきめ細かな指導ができるようにしている。（「<英語>単位時間の途中で習熟度別少人数に移行」）

これによって、自分の理解の程度に合わせて授業が展開されていると感じる生徒が多くなり、こうした感想は基本コースを選択した生徒に特に多いことが分かった。

習熟度別学習の場合、選択するコースの分け方が生徒の学習意欲に大きく影響することが多い。コース選択に当たっては、できるだけ生徒の自己選択を生かすように配慮している。習熟度別学習の意義やコース選択の重要性についての事前指導を行うほかに、目安となる診断テストを実施することもある。

#### コース選択学習

主として演習の時間に英語、数学ともに用いている。

ここでは第2学年数学「連立方程式」における演習に関する実践について紹介する。

<数学> 単元を通した少人数学習……本文、の例

2学年3章「平行と合同」における学習形態

題材・学習内容	時数	形態	1学級37人
1-1 平行線と角	3	等質分割	偶数番号 奇数番号
1-2 多角形の内角の和	3		
1-3 StepUp学習	1	一斉	ステップアップ 基本→深化→発展
2-1 合同な図形	1	習熟度別	生徒がコースを選択 基本 発展
2-2 三角形の合同条件	2		
2-3 証明のすすめ方	4		
2-4 StepUp学習	1	一斉	基本→深化→発展
3-1 FreeTime	1	習熟度別	基本 発展
3-2 単元テスト	1	一斉	一斉

#### <連立方程式の指導計画>

節	時数	学習内容
1. 連立方程式	1	・連立方程式と解 ・解の意味と解の確かめ
2. 加減法	3	・加減法による計算
3. 代入法	2	・代入法による計算
4. いろいろな計算	2	・分数・小数の係数や、( )のついた式の計算
単元テスト	1	
5. 応用	3	・文章題に応用
6. Free Time	1	・学びなおし(本時)
単元テスト	1	

#### <授業の流れ>

- 診断テスト
  - ・A、B両学級で、5分で4点満点のテスト実施。
  - ・「おすすめコースガイダンス」としてコース選択の目安を明示する。
- コース選択、移動
  - ・「おすすめコースガイダンス」と自己評価を参考にし、生徒が自分でコースを選択する。
  - ・基本コース…(診断テスト0-2点)…2A教室
  - ・深化コース…(診断テスト2-3点)…2B教室
  - ・発展コース…(診断テスト3-4点)…学習室
- コース別学習
  - ・基本コース(生徒36名、担当2名)…教材A、D
  - ・深化コース(生徒17名、担当1名)…教材B、D
  - ・発展コース(生徒15名、担当1名)…教材C、D
- ふりかえり
  - それぞれの学習した教室で「がんばりカード」に感想を記入する。

一連の学習内容を終えて単元テストの前に「FreeTime」として学び直しをする時間を設定している。普段は、それまでに使用した学習プリントやワークを使うことが多いのだが、ここではコース別学習を取り入れた。この時間は特別に、2学級を4人の教員で、習熟度の差を目安に3コースに分ける方法で実施した。

各コースの教材として次のような4種類の問題プリントを準備した。全体には<教材D>の「基本的な文章題」を標準的なレベルとするが、それぞれのコースで充実した演習の時間を過ごせるように配慮して、A～Cの教材を準備した。

- ・教材A……基本コース用……計算の基本練習
- ・教材B……深化コース用……計算の応用練習，評価規準のB段階に相当する内容
- ・教材C……発展コース用……複雑な文章題，評価規準のA段階に相当する内容
- ・教材D……共通教材……基本的な文章題，評価規準のB段階に相当する内容

#### (4) 基礎学力向上対策について

朝自習の時間を利用して全校読書を奨励し，帰りの会で全校一斉基礎学習（漢字・計算・英単語）を継続して実施してきた。12月から1月にかけての第5期「学びの充実」において，学習強調イベントとして全校一斉の基礎テスト「ChallengeTEST」を3回実施してきた。

生徒への指導は学級担任を中心に行われる。普段の授業に遅れがちで，自分の学力に自信をもてないでいる生徒を対象として，成功体験（満点や合格点を獲得すること）を重ねることで学習意欲の高揚を図ることを主なねらいとして事前指導を展開した。つまり，不合格になってからの再テストよりも「テスト前に合格するための具体的な努力」に力を入れてきたといえる。

これにより，普段の授業内容の理解が進まない生徒ほど学級担任の指導を心待ちにし，よい結果を収めることができた。

#### (5) 評価を生かした指導の改善

評価・評定について

年2回の期末テストの他に，「単元テスト」を各教科で実施して，その結果を生徒と保護者に知らせる。中でも単元テストの結果は，各教科の評定資料にもなるが，習熟度別コース選択の基準としたり，補充・深化のための個別学習の支援に生かされたりする。

振り返りカードの活用

各教科で工夫した自己評価の記録（教科毎に「学習カード」，「学習のあゆみ」，「がんばりカード」などいろいろな呼称がある）に，学習の歩みやそのときの感想などを記録して蓄積している。授業や学習内容に対する生徒の自己評価を読み取ることができる。

## 2 今後の課題

(1) 学習意欲について生徒の実態把握と分析に基づいて，全職員共通理解の下に的確な支援を組織的に展開できるようにする。

- ・NRT，学習状況調査の学力検査の実施と分析により，生徒の学力に関する実態把握に努める。
- ・学習状況調査の学習に関する意識調査の分析を通して，生徒の情意面の実態把握に努める。
- ・諸調査の分析を通して得た生徒の実態を踏まえて，学力向上につながる有効な手段を組織的に展開する。

(2) TTを継続するために欠かすことのできない免許外教員とのTTを効果的に進めるため，より一層の工夫改善を図る。

- ・TTの実践を通して問題点を明らかにし，具体的な解決方法について協議する。
- ・単元の指導計画や単位時間の指導過程について，TT担当者による会議をもち，TT担当者間の連絡を密にする。

(3) 少人数学習のために，より効果的な学習教材の開発に努める。

- ・英語科と数学科において，習熟度別学習の授業のために適した教材を開発する。
- ・各教科で，教師一人の授業でできる習熟度コース別学習のための教材を開発する。
- ・数学科において，免許外教員とのTTで行う習熟度別学習の授業に適する教材を開発する。

(4) 本校の実践について，研究集録の発行と研究会や授業公開の他に，情報発信の方法を探る。

- ・ホームページに「フロンティアスクール」コーナーを設けて，本校の実践に関する情報を発信する。

- ・ホームページや出版・刊行物を通して、他のフロンティアスクール指定校との情報交換を密にし、授業研究会への参加などにより研修を深める。
  - ・研究授業を公開し、参加者との協議を通してさらに研修を深める。
  - ・本校実践の成果を研究集録にまとめ、近隣諸校に頒布し多くの考えを集約できるようにする。
- (5) 目指す生徒像を具体的に掲げ、その実現に向けて実践を展開できるように努める。
- ・どんな生徒を育てたいか、目標とする「目指す生徒像」を明らかにする。
  - ・「目指す生徒像」の実現に向けて、具体的な行動計画を協議して、教職員全員で共通実践する。

#### 学力把握のための学校としての取組

##### 1 学習状況調査

国・社・数・理・英の5教科の学力調査と学習に関する意識調査で、毎年7月に実施される。学力検査の結果から見た「各教科ごとの同一学年の経年変化(県平均との比較)」と、学習に関する意識調査の結果から見た「学校・勉強のイメージ」について、本校「評価広報部」で分析した。

##### 2 N R T

国・社・数・理・英の5教科について、生徒の学力を把握するための標準学力検査で、毎年4月に実施している。全体的には良好な結果とみている。一部、偏差値50に届かない教科については原因を分析し、教科部を中心にその対策がとられた。

##### 3 定期テストと単元テスト

###### (1) 定期テストについて

本校は2学期制でさらに中間テストを行わないので、定期テストは前期と後期の期末テスト2回のみとなっている。国・数・英・理・社の5教科について、前期末テストは9月に、後期末テストは2月にそれぞれ実施して、相対的な成績が分かるように学年順位を明示して本人と家庭に通知する。それぞれの学期の学習内容を出題範囲として普段の学習の定着度を評価する。

###### (2) 単元テストについて

国・社・数・理・英の5教科について、単元等で区切って4～11回に分けて各教科で不定期に実施している。絶対評価の参考資料としているので、順位など相対的成績はつけないで得点のみを本人と家庭に通知している。

#### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

##### 1 公開授業研究会

- (1) H15年度「指定校訪問研究会」(H15.11.19)  
郡市内の小中学校教職員で参加者15名
- (2) H16年度「フロンティアスクール公開研究会」(期日未定)

##### 2 研究紀要の刊行

- (1) H15年度「平成15年度 矢島町立矢島中学校 研究紀要」(H16.3 発行予定)
- (2) H16年度「平成16年度 矢島町立矢島中学校 研究紀要」(発行期日未定)

##### 3 教育研究会の機関誌への寄稿

- (1) H15年度「矢島の教育」第38集(H16.3 矢島町教育研究会 刊)
- (2) H15年度「本荘由利の教育」(H16.3 本荘市由利郡教育研究会 刊)

##### 4 ホームページに掲載

- (1) 矢島中学校HPに「(仮称)フロンティアスクール」のコーナーを追加して公開予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  3学級以下  4～6学級  
 7～9学級  10～12学級  
 13～15学級  16学級以上

【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 その他

【研究教科】  国語  社会  数学  理科  
 外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無